

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	E0101~E9003(車両物流棟)	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県豊田市下山田代町イヤ田1番1地積392番、岡崎市高尾町平野田4-1地積99番	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工時期	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年7月6日
敷地面積	5,513 m ²	作成者	辻 知也
建築面積	2,615 m ²	確認日	2020年7月6日
延床面積	2,574 m ²	確認者	辻 知也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.7 ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100%</p> <p>②建築物の取組み: 74%</p> <p>③上記+②以外の: 74%</p> <p>④上記+: 74%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 0.0</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.8</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.5</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.5</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>8.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.5</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		基本設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音			-	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	-	
1 室温			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度			3.0	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.5	3.0	0.52	-	-	-	3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.2	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	2.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ビニル床シート20年/塩ビタイル20年/カーペット20年/天井ボード	-	5.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		通気管A/排水管B/中水給水管B/上水給水管C	-	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2.4 信頼性			0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	
3 電気設備	②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.4	4.1	0.48	-	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
	1 階高のゆとり		車両物流棟、駐車場の階高平均3.83m	-	5.0	0.60	-	-	-	
	2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.1	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5400Nm2以上	3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
	1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
	2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
	3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
	4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
	5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
	6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.46	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
	4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.6	0.15	-	-	-	3.6
	1.1 節水		自動水栓・節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.3	0.60	-	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		中水システムの導入	3.0	4.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
	2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	ビニル系床材/天井ボード	3.0	4.0	0.21	-	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体との容易な分離/再利用できるユニットの採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		ビニル床タイル・シート接着剤が有害物質を含まない	3.0	4.0	0.32	-	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
	1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0/GWP=3	-	4.0	0.50	-	-	-	
	3 冷媒			3.0	2.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	CO2計算書より	-	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止		電気温水器を採用により、燃焼機器設置無し	-	5.0	0.25	-	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
	3 交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
	1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
	2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
	3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
	1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
	2 砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
	3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 E0101～E9003(車両物流棟)

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・車両開発の生産性向上 ・人と自然がつながる自然共生型施設の実現
Q1 室内環境	※工場、駐車場のため評価対象外
Q2 サービス性能	内装仕上げは最小限として、設備機器と併せて、更新頻度が最小限となるように配慮。階高・床荷重にゆとりを持たせ、空間・荷重にゆとりを持たせるように工夫。
Q3 室外環境(敷地内)	積極的な敷地内緑化により、敷地内の温熱環境に配慮。
LR1 エネルギー	用途に合わせた空調方式の採用、LED照明・照明制御により消費エネルギーを低減。
LR2 資源・マテリアル	F☆☆☆☆建材の採用により、地球環境に配慮。
LR3 敷地外環境	敷地内緑化によりCO2削減。十分な駐車スペースや廃棄物処理スペース、荷捌きスペースを確保。
その他	特になし